

チーム医療としての細胞診

四国がんセンター

横山貴紀 山本珠美 岡本奈美 田中慎一 寺本典弘

藤本悦子 友野勝幸 坂井美佳 大亀真一 横山隆 竹原和宏

診断には**総合的**評価が不可欠

身体所見

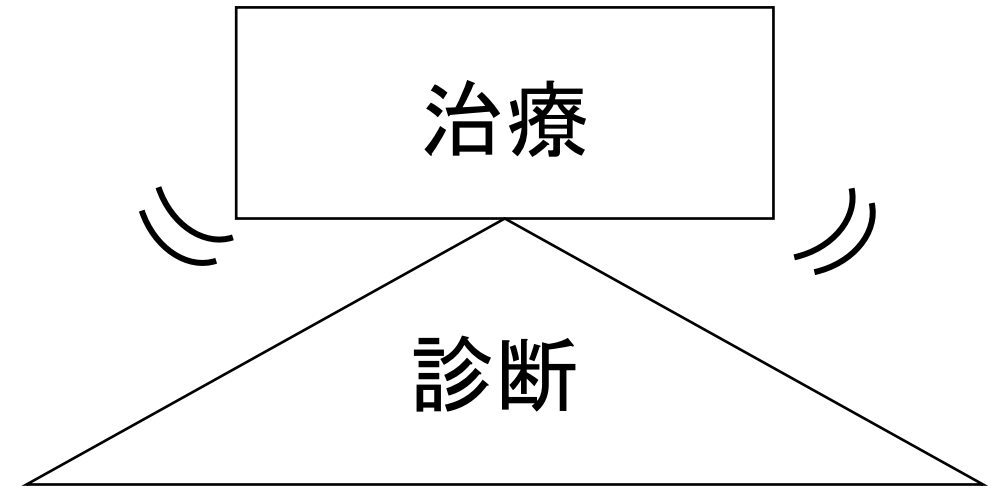
画像検査



病理学的検査
—細胞診 組織診—

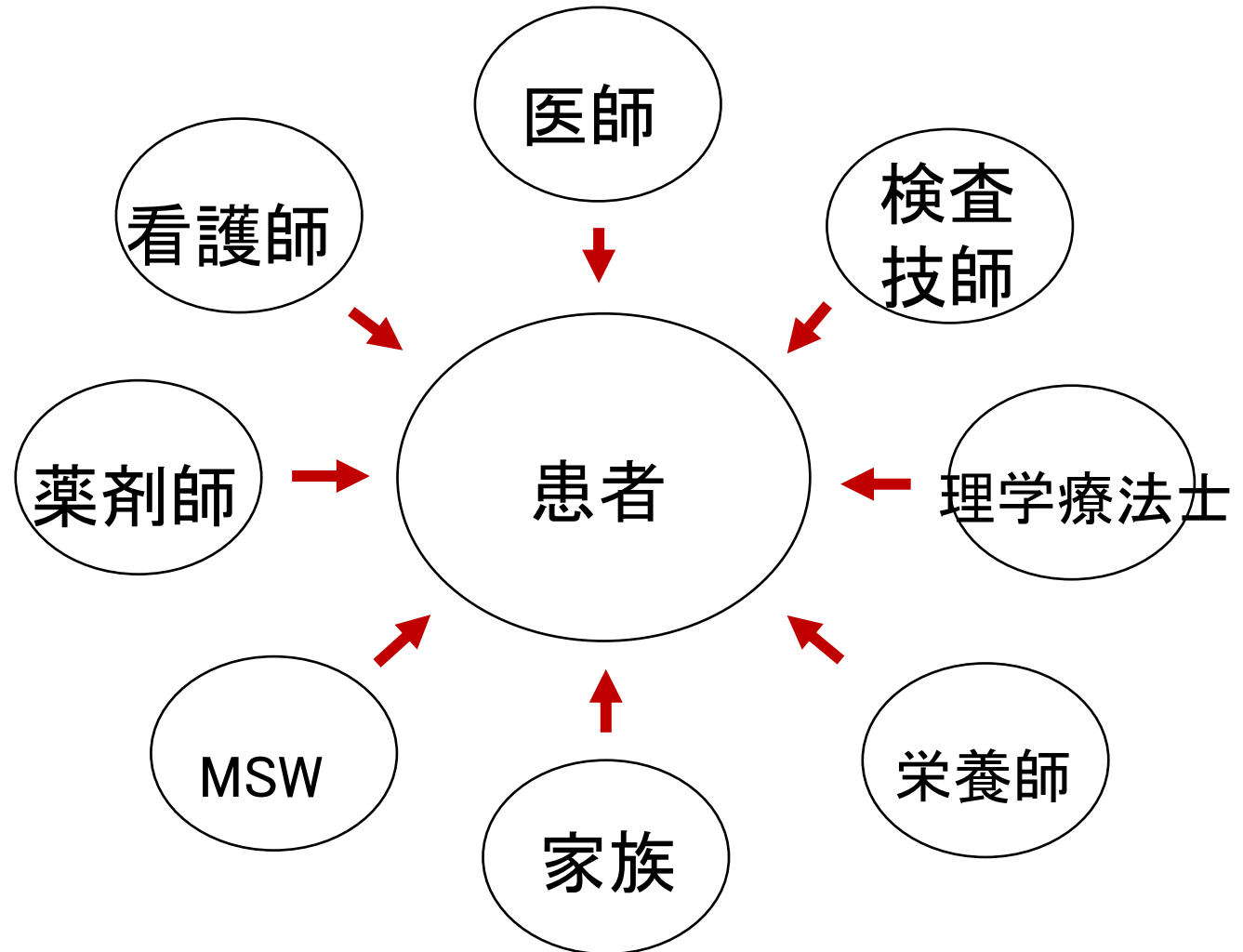
血液検査
生理検査

適切な治療には**正確な診断**が**不可欠**



適切な診断、治療には高い専門性が必要であり、
一人で行うことは困難

チーム医療：多職種が**高い専門性**で関与

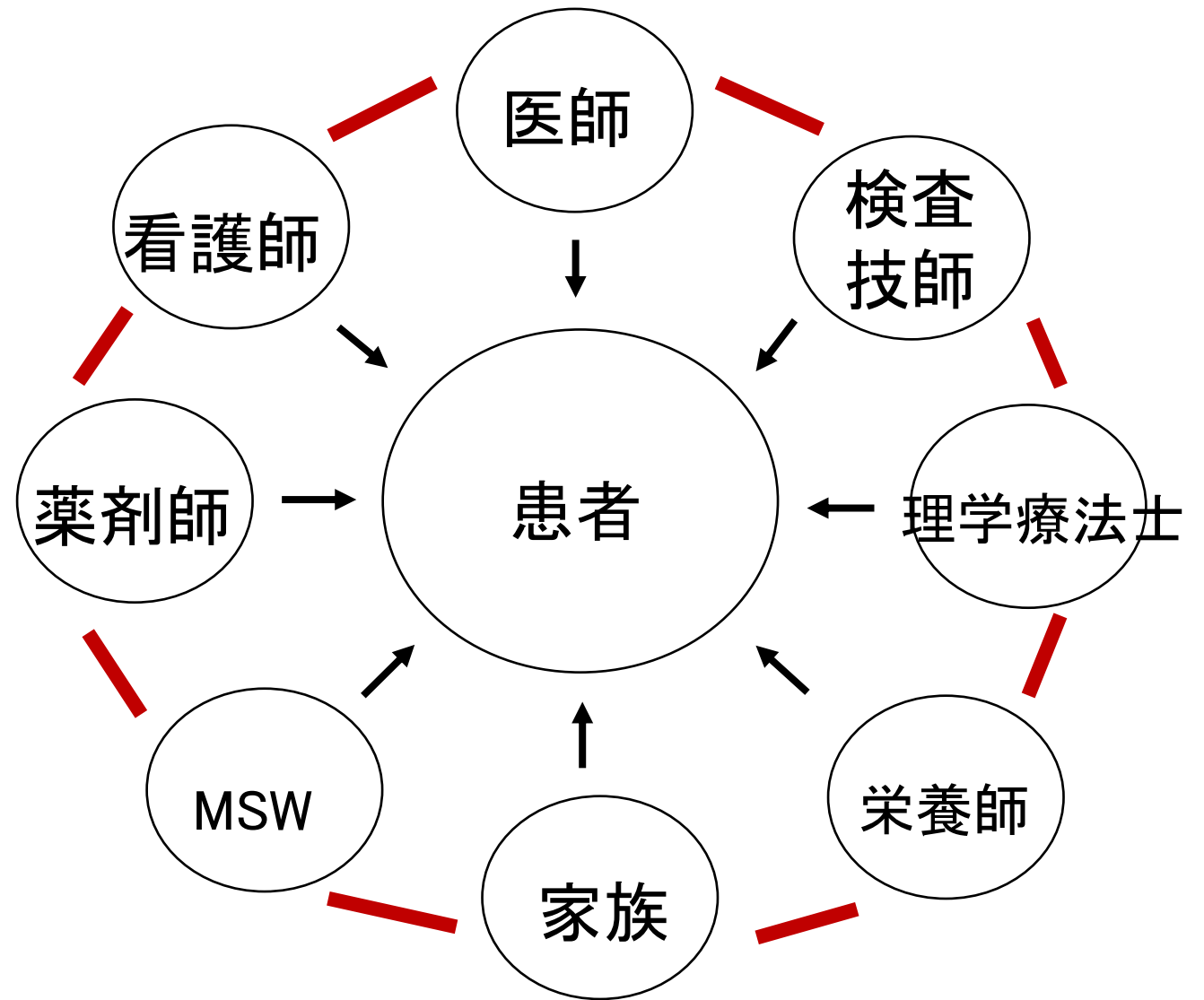


➤ 各々の高い専門性

チーム医療：他職種との連携した医療



- 良好なコミュニケーション
- 共通認識



チーム医療における細胞診断

【細胞診の利点】

低侵襲

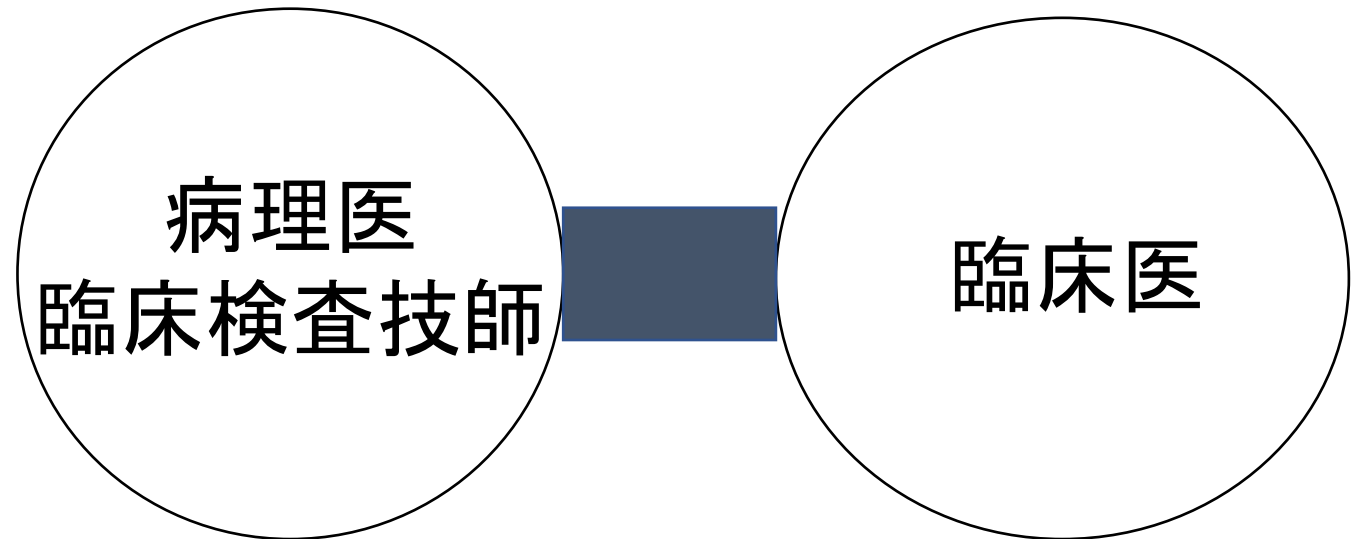
手技が比較的簡便

繰り返し検査可能

【限界】

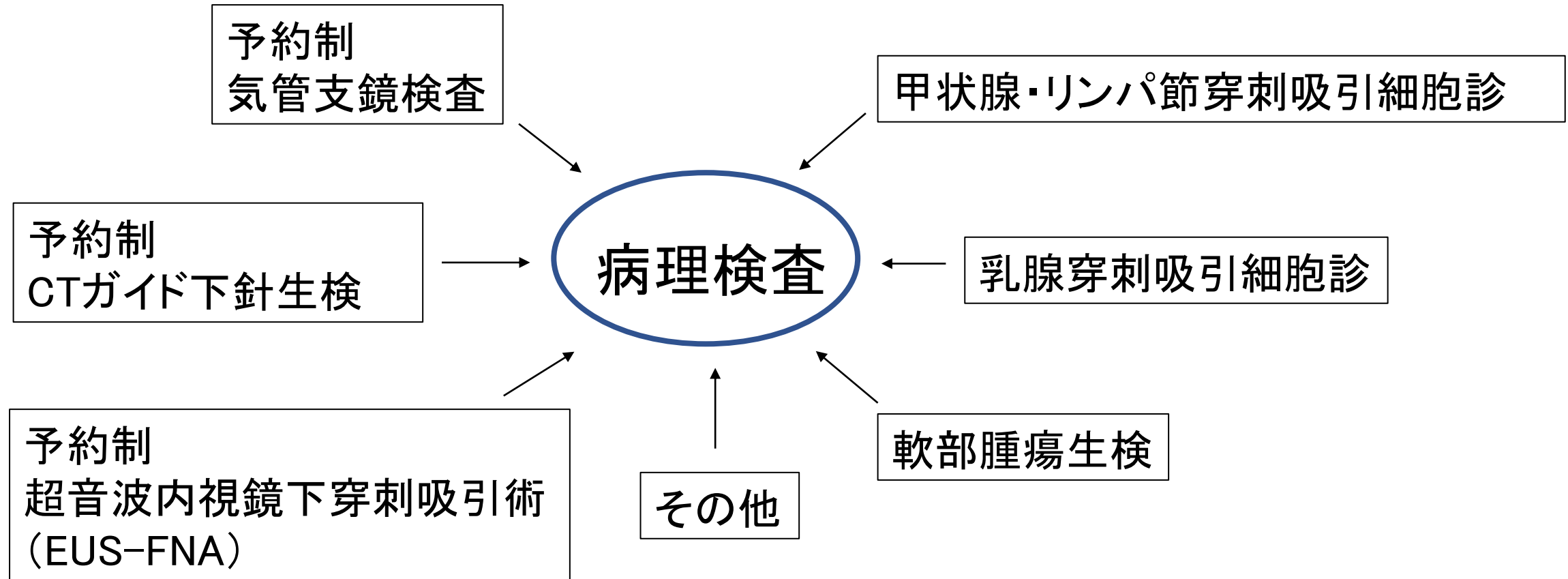
良悪性度評価の偽陽性、偽陰性

組織型の推定が困難な場合がある



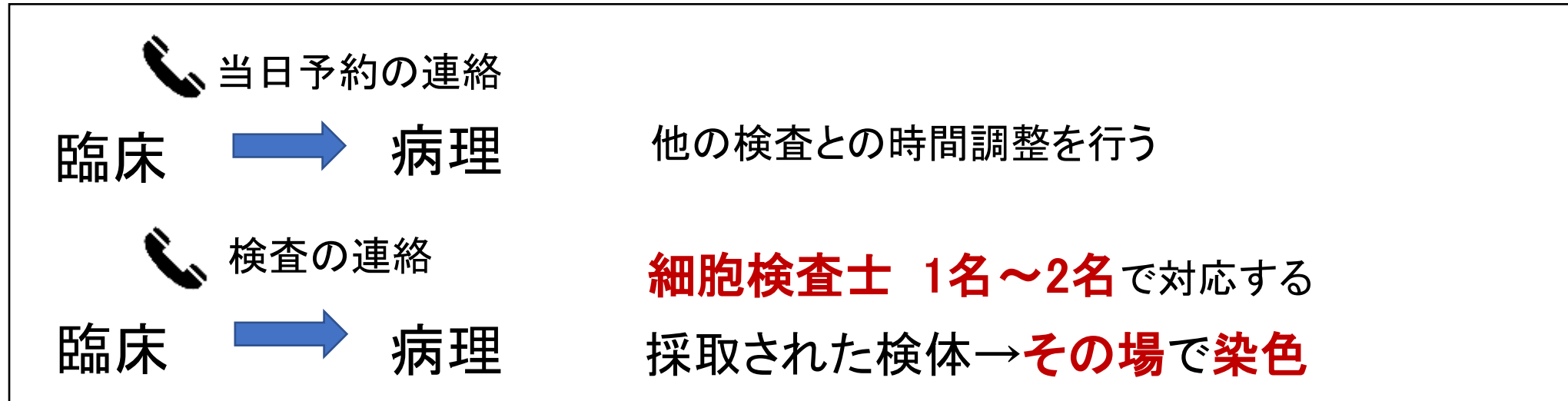
細胞診の利点と限界を理解した上で、**限られた医療資源**の中でよい医療が行えるよう診断側と治療側が協力すること

迅速細胞診 (Rapid On-Site cytologic Evaluation)



必要に応じてベットサイドで臨床側、病理側が協力して細胞診を行っている。

迅速細胞診 (ROSE) の流れ



良悪の診断

組織型の推定

(小細胞癌)

採取量の確認

陽性検体と陰性検体の分別

